

編集室から

三寒四温とはよく言ったもので、春の兆しは感じられるものの、まだまだ風は冷たく、なかなか暖かくはなってくれない日々です。一方で、気象庁などからの発表によると、今年の冬は暖冬だったそうで、驚きました。「数度の寒波・大雪に見舞われたものの、平均気温的には平年よりも高かった」という統計的な結果なのだと思いますが、人間の体感とは随分異なるものだなあと感じた方も少なくなかったのではないのでしょうか。

今年度、卒業や入試を迎えられた層の方々には、例年にまして大変な想いをされたのではないかと思います。入試を控えた学生を持つご家族の方々も、健康に気遣われるものですが、目には見えない微小な存在に、さらに一段と不安を抱えての期間を過ごされたことと思います。

仕事であれ、日常の暮らしであれ、突発的な事態が起きた時、そのレベルによって驚き、慌て、右往左往してしまいます。その瞬間はかなり劣悪な感情にも襲われ、強いストレスがかかったとしても、その危機を乗り越え、しばらく時間が経過すると、その御蔭で多くの学びを得ていたことに気付かされることがあります。試練は単純な苦痛の原因なのではなく、自身を成長させてくれる機会だったのかも知れない。そう感じる事ができたなら、その瞬間に嫌な記憶から一転して、感謝の念すら湧いてくるから不思議です。

ヒトは何のために生まれてきたのか。と言うと哲学的な重たい疑問になりますが、日々いろんな出来事に直面し、さまざまな感情が湧く体験を通じて精神的な成長をしていることを振り返ると、この体験をしに地球に来たのではないかと、思えてくるのも不思議です。

あらゆることを学びに転化できる人は、成長が早く、強い人でもありそうです。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2021/03
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2021/03
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

弥 生



白山比咩神社にて
by hama

人類史上最大規模のワクチン接種は、既に世界各国で試行錯誤しながら進められています。ヤンキースタジアム前に出来た長蛇の列を、一抹の不安と共に見られた方も多いでしょう。そうした様々な先行例を参考にしながら、日本でも「とりあえず、こんな形で…」と動きが始まりました。ただ確定情報は少ないので、憶測も交えた二月二十日時点のまとめです。

接種はまず医療関係者に対して始まっていますが、する側もされる側も慣れているので流石に大きな混乱はないでしょう。バイアルの取り扱いとアレルギーマシカには気を遣いますが、想定内として対処できるはず。最大のヤマ場は、次に予定される高齢者への接種です。その基本方針として突然現れたのが『練馬区モデル』です(図)。「早くて近くて安心」というコンセプトのもと、近くの診療所で受ける個別接種を中心に据えようとしています。確かに、理にかなった方法ではあります。高齢者にワクチン接種を行う場合、以下の三点が特に重要と想定されるからです。

一つ目は予約の問題です。アメリカのように多くの人が広い会場に集まる集団接種を行うと、手作業で予約をとっていきは時間がかかるミスも出ます。でもメールやLINEでは、使えない高齢者が続出するでしょう。近くの診療所なら、直接出向いて予約することも可能です。

二つ目は接種現場での混乱です。集団接種の模擬演習で一番の律速段階になったのは、問診でした。ワクチンの意義が正しく浸透しているとは思えない現状で、不安を抱えたままで接種会場に行き、初対面の医療者にマニュアル通りの対応をされては益々不安が募るでしょう。納得はできない、でも接種しないのも不安だ。時間だけ無為に過ぎそうです。馴染みの診療所

で顔見知りの医療者が対応することで、少しでも混乱は緩和されるでしょう。

三つ目は経過観察の問題です。接種当日のアレルギーマシカはもちろんのこと、その後に生じるかもしれない副反応は漏れなく把握する必要があります。マイナンバーカードなどのデジタルで管理する事が難しい以上、残念ですが旧態依然たる紙ベースに頼るしかありません。それも診療所に任せようという狙いのようです。

“練馬区モデル”とは?

診療所で個別接種
ワクチンは施設に **-75°Cで冷凍保存**
2°C~8°Cで冷蔵配送
診療所など区内の一部 **250か所に配送**
5日以内に使い切る
事前にかかりつけ医などの診療所に直接予約し接種

Yahoo!ニュースから引用



【プロフィール】
いながき としお(金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。

濱の起業塾 廿三『概論⑥』

人生初の起業の際、「実績」という名の「起業経験」は、起業家には無い。

その起業活動を通じて、興そうとしている事業にについては、従前に何らかの職務的経験を積んでいる場合が多いと思う。が、それでも「豊富な実績」を掲げて起業できる場合は、稀ではないかと思う。

起業をなす前後の局面で、欠かせないのが顧客の獲得、あるいは事業収入源の確保である。そのためには、何らかの営業活動もしくは、取引交渉を成就させる必要がある。その時の相手先が行政・大企業など、大きく・堅い組織の場合は、ほぼ必ず問われるのが、「実績」の有無や内容である。

個人的な体験を申し上げれば、初の起業の際は、実績が皆無だった。又社長の強力な営業力によって、なんとか受注してもらった案件を、満足に納めるべく必死だった。それこそ技術的裏付けがあるわけでもなく、全てが初体験で、教えていただける先達も居なかったから、それこそ暗中模索の連続だった。

二度目の起業では、それまでの経験が実績といえは実績となりえたが、組織体が別なら実績としてもち

セットすると言われて、アッサリ却下されたこともあった。そのような中、こちらを信頼して実績が無くとも任せてくれるクライアントが現れた時、感激して落涙したのを覚えている。ゼロから一を創るとは、それ以前には何も無い(ゼロだ)から、内側から何かを生み出すしかない。そして、一旦、一ができてしまえば、それを種に、二・三へと伸ばしていくことができる。

どんな起業現場でも、完全なゼロスタートということは珍しく、たいていコンマイチくらいの「種」はあるものだ。しかし世間には、「イチ」とならなければ存在を認めてもらえないという大勢があるようだ。だからこそ、ゼロの状態でも発注しよう、取引しようとして頂けることは、どれほど有難いことか。ゼロイチの経験をさされている方には、身に沁みてお分かりのことと思うし、その体験を忘れない限り、感謝と謙虚さを忘れることはないのだろうと思う。

たとえ実績がなくなるとも、取引をして頂けるクライアントが存在しなければ、起業の扉は開かれないことを考えると、このような客先の存在こそ、起業活動の画竜点睛を満たす存在なのではないかとさえ感じる。

起業後、最初の顧客とその方の想いを大切になさって頂きたいと、いつも願っている。

2020年の人口動態を2019年と比較すると次のようにまとめられる1。

- ①出生数は2.9%減（過去最低の水準）
- ②死亡数は0.7%減で11年ぶりの減少
- ③自然増減数は減少（マイナス50万人を超える水準）
- ④死産数は10.5%減
- ⑤婚姻件数は12.7%減で1950年以来の減少率
- ⑥離婚件数は7.7%減

全て減少しているが、各々、多様な解釈が考えられる。コロナ禍がなかった架空のケースを考え、それとの比較を基本として以下に考察する。

①出生数の減少は1974年以来続いている傾向であり驚きはない。むしろ2019年の対前年大幅減と比べて一旦歯止めがかかったかのように見える。一方で、妊娠届出数は2020年1～10月で対前年比マイナス5.1%²となっており、1～4月は方向感なく推移したものの5月の大幅減3のあと、大きなマイナスが継続している。よってコロナ禍による影響が出生数に表れるのは、この10ヶ月後の2021年3月からであり、2021年の出生数大幅減は避けられない。

②死亡数の11年ぶりの減少は意外に受け止められるかもしれない。2020年の新型コロナウイルス感染症による死亡数は3,500人弱であるが、感染対策を講じた結果、季節型インフルエンザウイルスや肺炎による死亡数が、1～9月で約1万5千人減少している。主にこのことが影響し、我が国では却って死ににくい一年だったという皮肉な結果になった。

③自然増減数は①②の結果の数である。減少という結果はやはり厳しい。

④出生数の減少にほぼ比例して死産数も減ると考えられる。一方で、病床の逼迫や院内感染、さらには母体等へのストレスの影響による増加を懸念していたが、数字を見ると杞憂に終わったようだ。

⑤婚姻件数は2000年以降マイナストレンドにあるが、減少率がとても大きい。令和婚ブームの反動に加え、コロナ禍が経済状況の悪化や結婚式等の開催しにくい状況を招き、婚姻を中止あるいは延期したものが多いと推測される。

⑥離婚件数にコロナ禍が影響するとすれば、経済状況の悪化による増減、外出自粛や在宅勤務等の家庭環境の変化による増減等が考えられる。離婚件数の減少は、婚姻件数の減少に連動した結果と捉える方が適切であろう。

注1) 厚生労働省「人口動態統計」。2020年10～12月は速報値

注2) 厚生労働省「令和2年度の妊娠届出数の状況について」

注3) 2019年5月はまさに令和婚、2020年5月は最初の緊急事態宣言発出

『それに早く気づいて動いている人たちが地域動かしているよね。みなかみ町の議員さんにも会ってきたけど30代の移住者の方が何人かいたよ。田舎は老人ばかりで若い人が出てこれないというのは嘘だね。僕らの町会見てもそうだけど都会の方が高齢者元気だから若い人が出てこれない気がする。目黒区もおじいちゃん達元気すぎてまだ下っ端仕事しか僕らしてないもんね(笑)。』

『ネットや通信インフラが整備されてきて、昔は東京でしかできなかった事が今田舎でもできちゃうというのもあるのかな。外部環境の変化が人や世代の価値観に大きく影響するよね。またネット社会で地理的・時間的な壁がなくなってくると、逆にその地域でしかできないというアナログな価値観が重要視されていくのかも。いわゆるネット疲れね。食べ物をすべて自分で作るなんて東京ではできないからな。』

『仕事だってこの1年でオンライン会議定着したからデザイン関係はネットでできるし、林業とかも人募集していて、趣味のキャンプで都市部のキャンパー向けのサポートサービスも合間でできたりと収入減っても固定費低いから手残りは上になると思うよ。』

『その考え方飲食業も同じなんだよね。売上や原価率といった●●率ばかりに目が行きがちだけど大事なのは必ず出ていく固定費と手残りの利益の額なんだよね。そしてその再現性の高さも。たとえば月の売上500万円で150万円の営業利益がある月に5回ある店と、250万円の売上で40万円の営業利益を確実に担保できる店どちらが魅力かと言えば後者のほう。つまり出ていくコストが高いほうが怖いわけ。確実に利益を出してくれるほうが経営者としては助かる。今回のコロナでの自粛要請でも明らかになったけど、コストが高い(家賃が高い、人をたくさん使っている)モデルは爆発すれば高収益が期待できるけど、何か環境(コロナのような天災、競合店の存在、従業員の退職)に大きく影響を受けやすい。また常に見通しが立つという意味での毎月の再現性がほんとに大切。最近都市部でも郊外のほうが町として元気だよね。』

『僕らも50歳に手が届くタイミングで次の30年どう働くか人生楽しむかを考えようよ。もう東京で何かしでかしたいみたいな若い時のような無謀な妄想なんてないでしょ(笑)。』

『いやいやまだ妄想している自分がいるのが恥ずかしい(笑)。』

おそらくコロナ禍もあって多くの都内で生活している方が感じたことではないでしょうか。僕自身もこちらで2014年から書かせてもらっているのですが過去の原稿から読んでいくとこの2年で地方移住を意識した内容になっていることに気づきました。友人のわくわくしながら移住の話をする姿が頭から離れないこの頃です。しかし、地方つまり田舎に移住することは幸せな事ばかりなのか?例えば狭い社会だからこその生きづらさもあると思うし、それが縁もゆかりもないところからの移住だと致命傷にならないか?子どもの教育環境はどうなのか?などなど。

次号では移住の失敗リスクについて調べてみたいと思います。

『相模の国から ～大魔神のたび～ 』 由布院への旅(2020.11/21～23)
神奈川県南足柄市企画部・都市部・教育部参事 溝口 久

手元に世界宿文化研究学会「私たちは12のビジョンを大切にしています」と書かれた冊子がある。

学会の名は日本旅館が世界に誇れる・冠たる宿文化を体現して、そして発信することから由来しているとする。

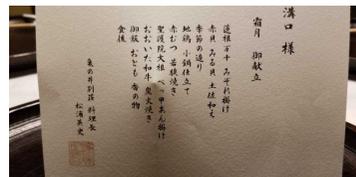
「12のビジョン」の中身はさて？特別なこだわりを抜粋すると

- 全てにおいて高品質を探求しお客様に喜びを与える
- 個性豊かな建物・地域の文化の継承と保護と発展
- 地域の生産者との関わりと消費
- 日本の宿文化を世界に発信する役割

が挙げられる。高い志を持ち、常に顧客の安らぎを配り、伝統と先進と確信を図り、崇高な理念を持ち日々実践を続けるスモールラグジュアリーな宿として13の旅館が名を連ねている。最低でも1泊2食3万円以上の高級旅館群だろうと中を見るとそうでもない。野沢温泉の住吉屋、松本市の旅館すぎもとといった1万円台の宿もある。

今回泊まる本学会のメンバーである亀の井別荘は4万円からだある。大正10年、別府観光の父油屋熊八の要人招待用別荘として創業した。金鱗湖の畔、一万坪の自然林の中に14室の離れ6室の洋室を構え、談話室、大浴場がある。これとは別にパブリックと称し誰でも利用できる茶房「天井棧敷」、バー「山猫」、食事処「湯の岳庵」、売店「鍵屋」がある。京都の柵家に代表される伝統旅館とは異なる。昭和50年代団体向け大型旅館が当時の宿屋のビジネスモデルだったときに、木造離れ、日本庭園ではなく雑木、宿泊客でなくても入れる売店、喫茶、食事処といったしつらえで高額な価格帯で打っていったのが、そのスタイルだ。

今回は離れ百番館に泊まることになった。6人まで泊まれる最も広い離れ、長女と次女と三人で泊まるには贅沢過ぎるが、こここしか空いていなかったため仕方なし。人生一度ぐらいここで泊まると腹をくくった。



ベッドに横たわると腰窓から庭を眺めることができる。でも寝ながらテレビを見ることもしたい。ヘッドボードに目をやると何やらスイッチがある。押すと腰窓前面に格納されたテレビが上がってきた。寝室とは別にリビングも、坪庭を眺めながら掘り炬燵で食事ができる部屋もある。トイレは2カ所、当たり前のように露天・室内風呂もある。

街歩きから帰ってきた娘たちと夕食、21時から談話室で恒例の蓄音機でのSPレコード鑑賞、レコードリストがありリクエストにも応じてくれる。曲により竹針と鉄針を使い分ける。ほぼ一時間のコンサートとなる。その後、天井棧敷に向かいウイスキーをちびりちびりとやって部屋に帰ってきたのが23時、ひと風呂浴びて床に就いた。

翌朝起きてひと風呂、金鱗湖散策後に朝食、この日は長女がリモートで大学授業があるということで特別にチェックアウトの時間を延ばしてもらい12時に宿を発つことにした。中谷健太郎さんご夫妻に見送ってもらい北九州空港に向かった。道中、23年前に住んでいた山裾にあるアパート付近を散策し娘たちと思い出を語り合った。どこそで遊んだ話から、彼女らにとっての由布院での日々は冒険の連続だったことを改めて感じた。由布院へのアクセスは大分空港が最も近いが減便中で時間帯悪く、次は福岡空港とすることがこれまで多かったが、北九州空港はどうかとチェックしてみると車を走らせている時間にそれほどの差はない。空港周辺の混雑差はないから、むしろこちらをお勧めしたい。由布院に私の案内で行きたいというリクエストがある。コロナ開いたら企画しようと思っている。(了)

